

発刊にあたって

山ノ内町長 友野 義平

遠くは五岳の連峰を眺め、近くは高社の秀峰を望む青垣山に囲まれた名にしおう「山ノ内」の地は、志賀の山々より流れ下る清冽な河川と豊かに湧出する温泉に潤う自然環境に恵まれた処であります。われわれの祖先の人々はこの地に生活し、血と汗で開拓して来た歴史を顧みるとき、其処には声なく語りかけている幾多の石造文化財が存在しています。これらの碑石は路傍の片隅で雨風にさらされながら、走り去る自動車の粉塵を浴び、雑草に埋もれてひそかにたたずんでおります。その様相は種々様々で、あるものは悩み、苦しみ、悲しみを訴え、あるものは歓びに満ち足りて安穩な生活に感謝しているかのようにも見えます。いずれも先人の生き抜いた感性を素直に表現しています。そして何がしかの魂をもってわれわれに問いかけています。

時は流れ世は移り変わっても、例えば旧草津道の辺の碑石は産業・交通・文化等住民生活を支えてきた歴史の遺産であることに変わりはありません。このような意味からも、たとえ破壊され痛ましい姿になり果てていても、その心情をくみとってあげたいものであります。

わが町には国・県指定の文化財をはじめ、町指定の文化財が多く存在しています。このたびその中から石造文化財を悉皆取りあげて調査し、写真と説明を付して記載し「山ノ内町の石造文化財」と命名して発

刊することに致しました。一九九八年の冬季オリンピックが当地でも開催される今日に於いて、本書の出版されることは、改めて町民の各位に「温故知新」の認識を深めていただき、国際観光の面からも真の郷土愛に目覚めうる意義深いものがあると思われます。この輝かしい本書の刊行に当たっては、調査員各位の絶大なるご労苦と町民各位の温かいご理解とによるたまものであります。謹んで敬意と感謝を捧げたいと思ひます。なおおおずき書籍株式会社の深甚なるご尽力に対し深く御礼申し上げます。